

事業報告書 (平成30年度)

事業名 多世代交流と地域のつながりを目指した場づくり

団体名 くらしのたね 担当者名 永野 直子

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

(1) 地域のお茶の間

毎週月曜日 10:00～14:00 年間計 35回

場所：くらしのたね

参加対象者：多世代どなたでも

人数：年間 約 100名

〈内容〉

- ・ オープンスペース…誰でも集える場
- ・ お針子の会… (12/3 6名、1/21 6名、2/18 5名) ※写真添付①
手芸の得意な方を先生にして、いろいろなやり方を教えてもらい、みんなで和気あいあいと刺し子をしながら交流する。
- ・ アレルギーの会… (1/30 8名、2/27 11名、3/4 11名)
アレルギーを持つ子供の保護者や、関心のある方が集まり、悩みを話したり、情報交換を行う会。また、講師による知識の共有、手づくりおやつ調理実習も開催。
講師：岡山市アレルギーを持つ親子の広場パンダスマイル
代表 森山 ちひろさん
- ・ 防災を考える会… (9/3 7名、10/1 6名、11/5 6名) ※写真添付②
昨年の西日本豪雨災害を振り返りながら、ハザードマップを使って自分の地域がどのような地域なのかを学び、災害に備えるために自分のできることをみんなで考える。東日本大震災経験者による体験やそこから感じた思いを聞き、実際の非常食を試食したり、非常用持ち出しバッグの中身を見せてもらいながら、それぞれ自分に合った非常バッグの中身を考える。西日本豪雨災害で援助に回っているボランティア団体の活動報告を聞く。
協力：岡山移住者交流の会「カモミール」
サンサポート岡山
- ・ たね食堂…毎月第4月曜日 11:00～13:00
地域のお母さんによる地域食堂を開催。(来場者 計 200名程)

- ・おかげまつり (9/17 100名、1/14 100名)
地域の人が集える場の提供と、日本文化(阿波踊り)の鑑賞。レクリエーション(巨大かるた大会)やお餅つき、豚汁のふるまい。

- (2) たねっこじかん
毎月第1, 2, 4水曜日 10:00~12:00
場所: くらしのたね
対象者: 未就園児の親子が中心
人数: 年間 計100組の親子
- ・自由あそびの日 ※写真添付③
室内のおもちゃを使つての自由あそび、絵本の読み聞かせ、手作りおやつ
の提供、自己紹介等
- ・さつまいもを植えようの会
畑にサツマイモを植える企画。30本の苗を植える(安納芋、紅あずま)
- ・こいのぼりアートの会
模造紙で作つた巨大こいのぼりに手形や足形でアート
- ・そうめん流しの会
屋外でそうめん流しを開催。たくさんの保護者の協力が得られた。
- ・写真撮影の会
普段なかなか撮ることのない日常の中での親子写真を写真家に撮影して
もらう会。
- ・ミニ運動会
室内で運動会未経験の未就園児による親子運動会。障害物競走、キャタピラ
競争など。
- ・お芋の会
春に植えたサツマイモを収穫し、みんなで調理して食べる会。
※写真添付④⑤

- ・子育て座談会～発達障害を考えよう～
毎月第3水曜日9:30~11:30(予約制)(年間 計60名)
発達障害をもつお子さんの保護者や、関心を持つ方、当事者の方、などによ
る意見交換、情報交換の場。異年齢の子どもの保護者が集まることにより、
経験談や先の情報、悩みの共有、相談が多方面からの角度で話し合われた。

2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

核家族化、少子化による地域の繋がり希薄化、育児の孤立化という現代社会の抱える環
境を課題として、多世代、多様なつながりの持てるような活動を多く取り入れ、また一人

一人に丁寧に接することで、参加者が「人は支えながら生きている」ことを感じながら、「自分はひとりじゃない」ことに気づき、そしてこの地域で暮らしていく楽しさ(QOL)を実感することができるよう、まさにESDの持続的な社会という視点を意識した。

3. 取組の成果(参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など)

・参加者が「お客様感覚」ではなく、主体的に関わる地域活動の当事者としての意識の向上が得られ、転勤族、核家族の多い地域ではあるが、岡山という地域に愛着を感じる方が増えてきたように思う。それによって、今後はこの活動以外の地域の関りにも積極的に参加する人が増える事が期待できる。

・「とにかくやってみる」という気持ちを大切にしながら、参加者に主体的に関わってもらうことで、一人ではできないこともみんなであればできるという経験が積み重ねられ、それと共に地域間の信頼性が増したように思われる。

4. 今後の課題と展望

同世代の繋がり比較的容易に形成できるが、多世代の繋がりなかなか容易ではなく、何かしらのきっかけやしかけが必要となって来る。そのしかけ作りと場作りとして、今後もくらしのたねが地域活動を積極的に行い、より多くの地域の人たちが当事者意識を満ちながら「岡山」という地域に愛着を持てるようになり、ひいては岡山全体の活性化につなげていきたい。

※添付写真① お針子の会



(様式第8号)

※添付写真② 防災を考える会



※写真添付③ たねっこじかん (読み聞かせの時間)



(様式第8号)

※添付写真④ たねっこじかん (お芋の会)



※添付写真⑤ たねっこじかん (お芋の会)

